

風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2017 夏号

79

公益財団法人 和歌山県文化財センター

特集

新宮城下町遺跡第1次発掘調査

― 縄文時代から中世の遺構 ―



特集 新宮城下町遺跡第1次発掘調査

「縄文時代から中世の遺構」

はじめに

新宮市文化複合施設建設により、新宮城跡西側の旧丹鶴たんかく小学校敷地付近が大規模に開発されるのに伴い、新宮市の委託を受けて平成28年2月から6月にかけて新宮城下

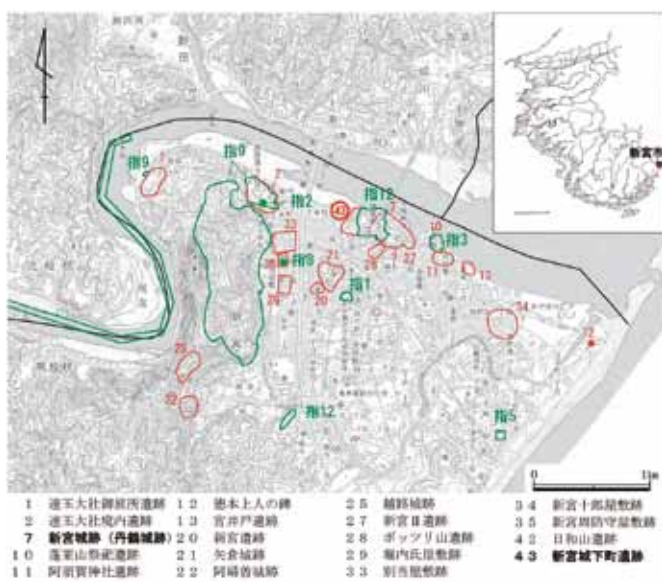


図1 遺跡の位置

町遺跡の第1次発掘調査を実施しました。

新宮城跡は、熊野川右岸に接する丹鶴山を中心うかがに築かれた平山城で、絵図などから窺うと丹鶴山周辺には武家屋敷が配置されていたことが分かっています。武家屋敷は広範囲に及びますが、新宮城跡に接する旧丹鶴小学校付近のみが新宮城下町遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)になっています。

遺跡付近は、熊野川が形成した自然堤防上で、洪水などの影響を受けにくい安定した土地であったことから、古くから生活の場となっていました。

調査面積は1,171㎡で、調査で検出した遺構面は3面あります。そのうち第1遺構面が江戸時代、第2遺構面が古墳時代初頭から室町時代、第3遺構面が縄文時代に帰属します。平成28年度中に第1遺構面を調査し、新宮城下町を構成する道路遺構

調査の概要

や屋敷地境の石垣などを検出しました。その内容は、風車75号に報告したとおりです。今回は、第2遺構面と第3遺構面の内容について紹介します。

1 第2遺構面

古墳時代 古墳時代の遺構としては、初頭から前期にかけての土坑を3基確認しました。また、須恵器の破片が調査区の各所



写真1 第2遺構面全景(上空から)



写真2 古墳時代の土坑



写真3 半地下式倉庫 (Aタイプ)



写真4 半地下式倉庫 (Bタイプ)



写真5 掘立柱建物群

で出土していることから、古墳時代中期から後期にかけても生活が営まれていたことが窺えます。

鎌倉時代から室町時代 当該期の遺構としては、半地下式倉庫7基・掘立柱建物4棟以上・大型土坑約30基・溝状遺構などを検出しました。

半地下式倉庫は、大きくA・Cの3つのタイプに分類できます。Aは壁が石積みで一段浅い突出部を持つタイプ、Bは方形の堅穴の底に平坦になるように石を敷き並べ

るタイプ、Cは方形の堅穴の底に柱穴を持つタイプとなります。全国的な事例から、Aは15・16世紀、Bは13・14世紀に多いタイプとされています。なかでもBは、神奈川県鎌倉市の若宮大路周辺遺跡群で多く確認され、石の上に土台を置いて柱を組む構造であることが分かっています。鎌倉市以外の地で発見されることが少なく、鎌倉幕府との繋がりを示す資料と言えます。掘立柱建物は、調査区の東側中央から南にかけて集中しています。確認できた建物

以外にも多くの柱穴が存在することからも、鎌倉時代から室町時代にかけての建物が、ほぼ同じ位置で建て替えられていることが窺えます。建物は基本的に棟方向が南北で、大きなものは柱間が2.1mで桁行6間×梁行4間あり、当時としては大きな建物と言えます。柱穴の直径は30～50cmで、多くは底に据石を置いています。据石は20～30cmの大きさで、石材は古い建物が花崗斑岩、新しい建物が砂岩を使用する傾向があります。

大型土坑は、基本的に直径1.0～2.0m、深さ1.5～2.5mの規模を持つ土坑を呼称していますが、それに準じる規模の土坑もいくつか存在します。調査区西側で検出した大型土坑は、ほぼ南北に列をなしており、大型の構造物が建っていた可能性もあります。これらには、断面観察で柱の痕跡を残すものや、底付近に10～30cmの礫を詰められたものがあります。また、土坑の底からは鏡が出土するものや銅鏡が出土するものなどがある



写真6 大型土坑列

り、その特殊性が窺えます。

溝状遺構は、西側で検出している大型土坑列を切り込んで南北に掘削されており、出土した遺物から室町時代のものであると考えられます。

2 第3遺構面

縄文時代の遺構には土坑があり、縄文土器(中期末頃)や石器などが出土しています。縄文土器は新宮市では速玉大社境内遺跡などで出土していますが、遺構は検出されず、新宮市内で初めて確認された縄文時代の遺構と言えます。

3 出土遺物

遺物は収納コンテナ130箱分が出土しています。これらには縄文時代の土器・石器(石錘・剥片石器)や古墳時代の須恵器・土師器、平安時代末頃から室町時代にかけての土師器・瓦器・瓦質土器・山茶碗・東播系須恵器・国産陶器(常滑焼・瀬戸焼・渥美焼・備前焼)・輸入陶磁器(白磁・青磁・青白磁・施釉陶器)・銭貨・石製品(滑石製鋼・砥石・茶臼・五輪塔・宝篋印塔)・金属製品(鏡・銅鏡・銭貨)、近世の陶磁器類・瓦類・金属製品(刀装具・鏡・銭貨)などがあります。



写真7 柱痕のある大型土坑



写真8 大型土坑出土の鏡

まとめ

半地下式倉庫・掘立柱建物・大型土坑の配置には規則性を見出すことができ、掘立柱建物は調査区の南東部、半地下式倉庫は北東部、大型土坑は西側とおおまかに3ブロックに分けることが可能です。また、第1遺構面で検出している江戸時代の道路付近を境に分布する遺構が異なっていることも窺え、中世においても同じ位置に道路が存在していたと想定することもできます。

そのように解釈した場合、大型土坑列と溝状遺構については区画に関わる遺構で、前者は中世前半期に大型の柵列として、後者は中世後半期に区画溝としての機能を持っていた可能性があります。道路は中世以前から存在した熊野速玉大社と阿須賀神社を繋ぐ道路と直交していることから、中世の町割りを踏襲して城下町が築かれた公算が高いと評価することもできます。

遺構の内容に加えて出土した土器類に青白磁や白磁・青磁などの高級品があること、また、鏡や石塔などの遺物から、調査区付近には熊野別当に繋がる有力者の屋敷地や



写真9 2016年度の確認調査で検出した石段・石垣

寺などの存在も考えられます。一方、調査区が熊野川に近く、付近に川湊かわみなとの存在が想定できることから、半地下式倉庫などは湊に係る施設で、掘立柱建物群については湊を管理する有力者の屋敷であった可能性も想定できます。また、第1次調査の後に実施した調査区北側部分の確認調査では、熊野川に下る石段や、その両脇に造成された階段状の敷地で鍛冶炉かじろを検出し、埵うぼなど

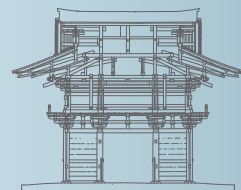
も出土していることから川に近い側で鍛冶や铸造が行われていたことも分かりました。これらのことから調査区付近にあった湊は、紀伊半島南端近くの海上交通の要衝ようしゆうに立地することから山間部の物資を集積する機能以外にも東西日本を結ぶ中継地・物流拠点としての機能が大きく、中世の港湾都市の構造を窺うとともに海上交通を考えるうえでも重要な発見と言いうことができます。

縄文時代の遺構面は、ごくわずかな範囲しか調査していませんが、縄文時代の生活面は、かなり広範囲に展開していることが予想でき、今後、住居跡等の発見も期待できます。

(川崎雅史)



写真10 縄文時代の遺構



県指定文化財(史跡)切部王子跡社殿

(切目神社本殿・拝殿)の保存修理事業

切部王子跡は、日高郡印南町西ノ地にあります。熊野九十九王子社のうち、藤代王子、稲葉根王子、滝尻王子、発心門王子とともに五体王子のひとつに数えられています。境内には県指定の天然記念物で樹齢約三〇〇年といわれるホルトノキがあり、この神社の長い歴史を物語っています。また、切部王子は歴史の舞台ともなりました。平治の乱では、平清盛は熊野参詣の途中、切部王子で知らせを受け、引き返し源義朝に戦勝しました。後鳥羽上皇が正治二年(一二〇〇)に熊野参詣の折、歌会を開き歌会でしたためられた十一一点の「切目懷紙」が今も残されています。元弘の乱では、切部王子で熊野権現から夢のお告げを受けた護良親王が、十津川へと落ちのびたという故事が「太平記」に記されています。

切部王子のものと社地は、現社地の東隣の丘上にありましたが、天正十三年

(一五八五)の兵火で焼失し、一五九二年

に現社地に神社が建立されました。現在の

本殿は文政十一年(一八二八)に再建され

た春日造、檜皮葺の正面一間、側面二間の

大規模な社殿

で、手挟・木

鼻などの装飾

的な意匠はこ

の本殿の特徴

です。内外陣

境は中央間を

開放とした間

仕切を設け、

内陣を一段高

くして宮殿を

安置しています。

宮殿は正面入母屋造背面

切妻造屋根の本格的なものです。木鼻など

の絵様は古式で十七世紀前期まで遡ると考

えられます。

檜皮葺屋根は昭和五四年に葺き替えられました。部分的な葺き替えや補修、社殿周



切目神社本殿・拝殿(拝殿は安政3年(1856)の建立)

囲の木の枝を払って風通しをよくするなど手入れをしてきましたが、十数年前から傷みがひどくなり、県指定史跡の整備事業として本殿檜皮葺屋根の三七年ぶりの葺き替えとなりました。風化してやせた拝殿正面の砂岩切石の礎石の取り替え、壁板や床など破損部の補修、宮殿の軒廻りの補修なども同時に行い、五月末にすべての工事が終わりました。

今回の修理は氏子の方々の理解と協力があったため無事終了することが出来ました。郷土の文化財に愛着を持ってもらうため切目小学校・中学校の児童生徒にも現場説明を行いました。次の世代になっても協力し合っ

てこの社殿を大切に守り伝えてほしいものです。

(寺本 就一)



切目中学校の現場見学会

みなさんも、チョークを学校の授業で使ったことがあるのではないのでしょうか。板書する機会の多い学生時代には馴染み深い道具です。

建物の調査では痕跡こんせきをはつきりさせるために、チョークを使うことがあります。チョークは使用後すぐに拭き取れば、部材を傷めなくて済み、また、色分けに加えて○□△など、しるしの形を変えることで使い方を幾通りも考えることが出来て便利です。

旧西村家住宅の屋根裏の妻壁板は、二枚重ねで貼り付けられ、沢山の釘で打ち付けられていました。釘は頭の形状や、材質に違いがあり、大きさも様々でした。

上の壁板の釘を分類し、それらを記録した後、取り外して下の壁板にもしるしをしました。すると、下の壁板を止めた釘穴が浮かび上がり、補修の為に何回か付け直しされた部分や、「壁板の継ぎ目には補強や隙間すきまを防ぐ為の幅の目板めいた」(狭い板)が取り付けられていたこともわかりました。

(大給友樹)



上層の壁板



下層の壁板(上記写真枠部分、線は目板位置)
チョーク色部分
(黄:目板、青:付け替えた釘痕、赤:当初の釘痕)

きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

発掘調査をしていると、時々何のために使われたのだろうと首をかしげたくなるものに出会う事があります。私が昨年度調査を行った和歌山市相方遺跡で出土した遺物の温石もその一つです。今回はその温石について触れてみたいと思います。

温石とは、漢字のとおり温かい石で昔の携帯用懐炉かいろのことです。その歴史は古く平安時代頃から江戸時代まで使われていました。一般的な形は板状で穴があります(写真1)。石を温めて真綿などで包んで懐に入れて暖をとりました。これは蛇紋岩じやもんがんと呼ばれる比較的軟質の石です。その他にも滑石かっせきと呼ばれる軟質の石材が用いられます。石を温めるといふ発想がないと懐炉と気がつきませんでした。

その後、携帯用懐炉は姿を変えます。木炭を不燃性の石綿で包んだり、液体燃料を利用したりします(写真2)。さらに現在では鉄粉を酸素と水と反応させ水酸化第二鉄となる過程で発生する熱を利用する携帯用懐炉となり、より薄く軽く便利になりました(写真3)。この様に身近な携帯用懐炉にも歴史があります。

(加藤達夫)



(写真1) 遺跡から出土した温石



(写真2) 液体燃料や木炭の携帯用懐炉



(写真3) 携帯用懐炉

催し物案内 和歌山県内の文化財関係イベント情報 (2017年夏～2017年秋)

(公財) 和歌山県文化財センター

- 地宝のひびき 会場：きのくに志学館（和歌山県立図書館）
2F 講義・研修室 2017年 7月23日（日）13:00～17:00

和歌山県立紀伊風土記の丘

- 夏季企画展「道路の下から新発見」 2017年 7月15日（土）～9月3日（日）
- フカミンのおしゃべり考古学② 2017年 7月14日（金）13:30～15:00
- 学芸員講座「岩橋千塚①」 2017年 7月22日（土）13:30～15:30
- 展示講座③（夏季企画展） 2017年 8月5日（土）13:30～15:30
- フカミンのおしゃべり考古学③ 2017年 9月13日（水）13:30～15:00
- 学芸員講座「岩橋千塚②」 2017年 9月16日（土）13:30～15:30

和歌山県立博物館

- 企画展「紀伊徳川家の家臣たちⅡ」 2017年 6月10日（土）～7月17日（月・祝）
- 夏休み企画展「のぞいてみよう！えのぐぼこ」 2017年 7月22日（土）～9月3日（日）
- 企画展「西行と明恵」 2017年 9月9日（土）～10月5日（木）

和歌山市立博物館

- 特別公開「重要文化財 馬冑の実物展示」 2017年7月19日（水）～9月10日（日）
- 特別展「美尽し善極める－駿河屋の菓子木型－」 2017年7月22日（土）～8月27日（日）
- コーナー展示「ここはどこ？近世の日本地図」
「紀州徳川家伝来の絵画」 2017年8月8日（火）～10月1日（日）

高野山霊宝館

- 夏期企画展「正智院の名宝」 2017年7月15日（土）～10月9日（日）（月・祝）

掲載内容は、変更される可能性があります。詳細は各施設へお問い合わせください。

目次

- 1 表紙「新宮城下町遺跡 発掘調査」
- 2 特集「新宮城下町遺跡第1次発掘調査 - 縄文時代から中世の遺構 - 」
- 6 文化財建造物課 短信「県指定文化財（史跡）切部王子跡社殿（切目神社本殿・拝殿）の保存修理事業」
- 7 きのくに歴史小話「文化財建造物修理技術者の道具 ⑧ チョーク」
「温石 - 携帯懐炉の歴史 - 」
- 8 催し物案内

風車79 (2017・夏号)

平成29年6月30日

(公財)和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp>

(公財) 和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1
TEL 073-472-3710
FAX 073-474-2270
maizou-1@wabunse.or.jp